

解説：

＊麻疹：損傷が治癒してできる、欠損した組織を埋める結合組織と、これをおおう薄い表皮で形成される。

問題11・・・

病名と検査法3つを述べよ。

34歳男性。5年前からアフトタ性口内炎を繰り返す。3年前から陰部遺瘍を繰り返す。一週間前から眼がかすむようになり、ぶどう膜炎と診断、眼科に入院。入院時から硬結を伴う紅斑が数個出現したため、皮膚科を紹介受診した。

解答：

病名・・・ペーチェット病

検査法・・・①針反応、②HLA 抗原検査、③炎症反応検査、④レンサ球菌ワクチンによるブリックテスト（これから3つ選択）

解説：

※ペーチェット病について

- ・口腔内再発性アフタ、眼症状（ぶどう膜炎）、外陰部潰瘍、皮膚症状（結節性紅斑様皮疹）などの出現。
- ・原因不明の炎症性疾患で、中年男性に好発し、高頻度に血栓性静脈炎を惹起。
- ・神経、腸管、血管に生じる特異な重症型が存在。
- ・HLA-B51と強い相関、日本人に多い。
- ・針反応陽性
- ・治療はコルヒチンや免疫抑制薬

※検査法について

①針反応：陽性。

患者の皮膚に針を刺すと、24～48 時間後に紅斑や丘疹、もしくは膿疱を生じる反応。皮膚の被刺激性の亢進による。70%の症例で陽性。

②HLA 抗原検査：HLA-B51 陽性。

ペーチェット病患者では陽性率が50～60%。健康人では約10%。

③炎症反応検査：CRP（C反応性蛋白）陽性。

CRP とは、急性炎症反応の発生效后、約2～3 時間で急激に上昇する蛋白質である。炎症の早期診断や組織の破壊を調べる目的で測定され、感染症や膠原病、外傷、悪性腫瘍などの診断や経過観察などに利用される。

☆その他の炎症反応検査

赤沈亢進、CRP 陽性、免疫グロブリン(IgD,IgA)上昇、白血球とくに好中球増多、補体活性亢進（悪化時）

④レンサ球菌ワクチンによるブリックテスト：陽性

レンサ球菌死菌抗原によるブリックテストで20～24 時間後に強い紅斑反応がみられる。

問題12・・・

接触皮膚炎の発生機序について述べよ。

解答：

接触性皮膚炎には次の2つがある。

1 次刺激接触皮膚炎は接触源により表皮細胞が傷害されて、ライソソームや各種サイトカインが放出される事で生じる炎症反応である。

アレルギー性接触皮膚炎は経皮的に侵入した原因物質が、ランゲルハンス細胞によって捕獲され、胸腺由来 T 細胞へ抗原情報として伝達され、T 細胞がリンパ節で増殖する。再び抗原が侵入した際に、T 細胞が活性化して各種サイトカインを放出し、炎症反応がおきる。(198 文字)

問題13・・・

デルマトロームについて例を挙げよ。(肝臓疾患のデルマトロームでは・・・のように。)(200 字)

解答：デルマトロームとは。

内臓病変の二次的変化として皮膚病変が生じたもの。

＜例＞肝臓疾患のデルマトロームで有名なものに黄疸がある。黄疸とはビリルビンという色素が何らかの原因で血液中に増加し、その結果、全身の皮膚や粘膜に過剰に沈着した状態を意味する。

肝細胞の障害による黄疸（肝細胞性黄疸）

代表的な疾患は急性肝炎。ウイルス、薬剤、アルコール、自己免疫など様々な原因でおこる。慢性肝炎は通常は黄疸をみない。肝硬変で 黄疸をみる場合には、肝細胞の機能がかなり低下していることを意味する。

その他、黄疸の原因としては、溶血によるものや、胆汁のながれが障害されたものや、体質性のもがある。

解説：そのほかに・・・糖尿病におけるデルマトロームなどもある。

糖尿病における皮膚変化として、糖尿病の代謝異常に直接関連して皮膚症状が増悪し発症する直接デルマトロームと、代謝異常とは直接関連しない間接デルマトロームがある。直接デルマトロームの疾患には、糖尿病性壊疽、糖尿病性浮腫性硬化症、糖尿病性黄色腫、リポイド細壊死症、糖尿病性水疱、デュライトン拘縮などがある。間接デルマトロームの疾患では、湿疹・皮膚炎および皮膚掻痒症や、易感染症などがみられる。

問題14・・・

菌状患肉症について説明せよ。(200 字以内)

解答：

菌状患肉症とは、皮膚に原発する T 細胞性悪性リンパ腫であり中年以降に多い。10～20 年程かけて慢性的に経過し、紅斑期から扁平浸潤期、腫瘍期へと移り変わっていく。治療法は、扁平浸潤期まで P UVA 療法を用い、それ以降は加えて電子線療法や外科的手術を要し末期には化学療法を行う。病理所見の特徴は、表皮向性による Pautrier 微小膿瘍という表皮内の異型リンパ球浸潤と、患肉症細胞の表皮内への浸潤である。（197 文字）

解説：

＊押さえておくべきキーワード

- ・皮膚に原発する T 細胞性悪性リンパ腫